

京王電鉄、「民泊」に参入

京王電鉄は住宅の空き部屋などに旅行者を有料で泊める「民泊」分野に参入する。民泊の予約仲介サイトの運営会社に10%出資し

管理するマンションなどの有効活用を狙う。

た。国家戦略特区の特例を利用して東京都大田区が民泊を認める条例を定めたのを受け、同様の動きが他地域にも広がるとみてノウハウを蓄積する。訪日外国人観光客を誘致、グループで

政府は「観光立国」を掲げており、宿泊施設の整備強化が課題になっている。大阪府も大田区と同様の条例を制定するなど、特区での実績を踏まえ、今後、旅館業法で原則禁止されてき

予約仲介サイト

運営社に10%出資

た民泊が広がる可能性がある。ルール作りなど課題はあるが、企業が先行して動き出した形だ。

京王電鉄はIT（情報技術）ベンチャーの百戦錬磨（仙台市）の第三者割当増資を引き受けた。出資額は2016年2月にも実際の宿泊が始まる見通しだ。

羽田空港がある大田区では2016年2月にも実際の宿泊が始まる見通しだ。

錬磨は旅館業法の規制対象外の農家での宿泊を仲介する事業で実績があり、グループ会社のとまれる（東京・千代田）が今月、大田区の住宅を対象とした民泊の予約仲介サイト「STAY JAPAN」を立ち上げた。